



2025年7月23日

各位

会社名 窪田製薬ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長、社長兼最高経営責任者
窪田 良
コード番号 4596 東証グロース
問合せ先 広報・IR部
(TEL：03-6550-8928 (代表))

眼科医であり窪田製薬 CEO の窪田良、第 64 回日本白内障学会総会・第 51 回水晶体研究会で教育講演

窪田製薬ホールディングス株式会社（本社：東京都港区、代表者：窪田良、以下「当社」）は、2025年7月18日から20日まで石川県金沢市の石川県立音楽堂にて開催された「第64回日本白内障学会総会・第51回水晶体研究会」において、眼科医であり代表取締役会長、社長兼 CEO である窪田良医学博士が近視に関する教育講演を行ったことをごお知らせいたします。本講演では、近視の世界的な増加傾向とそれに伴う合併症、さらに最新の近視抑制技術について解説を行い、多くの参加者の関心を集めました。

学会は、白内障および水晶体疾患に関する基礎研究・臨床研究の発展を目的に開催されており、新技術の臨床応用に関する知見の共有と学術的議論の場として、国内外の眼科専門医や研究者が一堂に会する貴重な機会となっています。毎年、最先端の研究結果が発表され、眼科診療の質向上と将来の治療戦略の構築に寄与しています。

講演では、2050年までに世界人口の約半数が近視になると予測されていることに触れ、近視の進行により網膜剥離、緑内障、近視性黄斑症など、重篤な視機能障害を伴う合併症のリスクが高まっている現状が紹介されました。特に網膜剥離は、眼軸長の過度な延長による網膜の菲薄化・脆弱化が原因とされ、近視との強い関連が指摘されています。加えて、近視性黄斑症は、網膜色素上皮（RPE）の萎縮、後部ぶどう腫、新生血管形成などにより視力の著しい低下を引き起こします。近視を1ジオプトリ（D）軽減することで、近視性黄斑症の発症リスクが約40%低下することが研究により明らかになっています。

また近視は、200を超える遺伝子座と関連する多因子性疾患である一方で、自然光への曝露不足や長時間の近業作業といった環境因子も、進行に深く関与していることが示されています。周辺部の遠視性デフォーカスや調節ラグといった仮説がその発症メカニズムとして注目されており、屋外活動時間の増加が進行抑制に有効であることも報告されています。

治療および予防手段としては、近年日本でも認可された低用量アトロピン点眼薬をはじめ、多焦点コンタクトレンズ、オルソケラトロジー、軸外収差眼鏡などの光学的介入に加え、低照度赤色光療法やバイオレットライト眼鏡といった光線療法が有望視されています。さらに、当社が開発を進める「クボタメガネ・テクノロジー®」は、網膜に人工的な光刺激を与えて近視の進行の抑制、治療を目指す当社独自のアクティブ・ステイミュレーション技術であり、今後の近視制御における新たな選択肢として、さらなる研究と実用化が期待されています。

眼科医であり、当社の会長、社長兼最高経営責任者である窪田博士は、次のように述べています。

「近視はもはや個人の視力の問題にとどまらず、将来的に社会全体の医療負担やQOLに大きく影響する世界的課題です。私たちは、科学とテクノロジーの力を融合し、次世代の近視対策ソリューションを提供していくことで、人々の『見る力』を守り続けたいと考えています。」

クボタメガネ・テクノロジー®について

クボタメガネ・テクノロジー®は、網膜に人工的な光刺激を与えて近視の進行の抑制、治療を目指す当社独自のアクティブ・ステイミュレーション技術です。網膜に光刺激を与えて近視の進行の抑制、治療を目指す技術は既に実用化されており、米国では CooperVision 社の「MiSight®1day」という製品が近視抑制の効果があるとして米国食品医薬品局（FDA）より認可を受け、販売されています。この製品は、多焦点コンタクトレンズの仕組みを応用し、自然光をばかして網膜周辺部に刺激を与えることで、一般的な単焦点コンタクトレンズと比較して近視の進行を抑制することを証明したコンタクトレンズです。一方、当社グループの「クボタメガネ・テクノロジー®」は、この理論的根拠をもとにメガネに投影装置を組み込むことで、自然光をばかすことなく、直接映像を網膜周辺部に投影することを実現し、先行品よりも短時間の使用でより自然な見え方を維持しながら、高い近視抑制効果を実現することを目指しています。

窪田製薬ホールディングス株式会社について

当社は、世界中で眼疾患に悩む皆さまの視力維持と回復に貢献することを目的に、イノベーションをさまざまな医薬品・医療機器の開発及び実用化に繋げる眼科医療ソリューション・カンパニーです。当社グループは、革新的な治療薬・医療技術の探索及び開発に取り組んでいます。現在は、ウェアラブル近視デバイス「クボタメガネ」および、在宅・遠隔医療分野（モバイルヘルス）における医療モニタリングデバイス「eyeMO®」などの医療機器開発と「Kubota Glass®」のグローバルでの販売強化に注力しております。

（ホームページアドレス：<https://www.kubotaholdings.co.jp>）

免責事項

本資料は関係情報の開示のみを目的として作成されたものであり、有価証券の取得または売付けの勧誘または申込みを構成するものではありません。本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されています

が、完全性を保証するものではありません。また本資料の作成にあたり、当社に入手可能な第三者情報に依拠しておりますが、かかる第三者情報の実際の正確性および完全性について、当社が表明・保証するものではありません。当社は、本資料の記述に依拠したことにより生じる損害について一切の責任を負いません。本資料の情報は、事前の通知なく変更される可能性があります。本資料には将来予想に関する見通し情報が含まれます。これらの記述は、現在の見込、予測およびリスクを伴う想定(一般的な経済状況および業界または市場の状況を含みますがこれらに限定されません)に基づいており、実際の業績とは大きく異なる可能性があります。今後、新たな情報、将来の事象の発生またはその他いかなる理由があっても、当社は本資料の将来に関する記述を更新または修正する義務を負うものではありません。